

令和2年度

自己点検および学校関係者  
評価報告書

宇都宮ビジネス電子専門学校

# 1. 学校の現状

## I. 学校の教育目標

### 1. 専門学校としての使命と目的

学校教育法第 124 条、及び第 125 条の規定に基づき、社会人として必要な教養と専門知識を有する有能な人材を育成し、工業及び商業経済の発展に貢献できる人材の育成を使命・目的とする。

### 2. 教育目標

使命・目的のもと、教育目標を下記のように定める。

- ・ 専門技術や技能の習得
- ・ 豊かな人間性と個性の伸張
- ・ 誠実で心豊かな人間性の育成
- ・ 広い視野と優れた創造性を育む
- ・ たゆまぬ努力とどんよくな研究心・向上心の育成

これらを育むことにより自信をつけさせ「社会での生きる力」を植えつける。

## II. 重点的に取り組むことが必要な目標（教育重点項目）

### 1. 学生の「やる気」向上の実現

### 2. ドロップアウト・ゼロの実現

重点項目	評価項目	評価※
1-1	学生の「やる気」を向上させるための研修は行われているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

#### ①課題

- ・ 新任教員等の研修が行き届いているとは言い難い。ゆえに、新任教員の「やる気」を向上させるための研修もまだまだ不十分と言える。

②今後の対応または改善

- ・全体研修は、継続して研修を実施していく。また、新任教員の研修は、全体研修にプラスして個別に対応し、学生管理や実績の向上に活かしてもらう。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・第一に目標設定。  
資格取得に大目標を設定しているため、十分にやる気をだせると確信している。
- ・新任の教員採用が多かったので一時的に自己評価が下がるのは仕方ない。
- ・夏休み等の個別研修等も予定されているから期待したい。
- ・いかなる組織でも定期的、段階的な研修を施さなければ積み重ねたノウハウを継承することは困難である。また、過去のデータを周知しなければ、時代に即した新しい発想や工夫の構築も不可能である。学校は、学生の長期休業があるので、その期間を利用した組織的研修・研究体制を構築しやすいのではないかと考える。研修は、学生指導、授業展開、経営理念に基づいて進め、それぞれの研修を連動して要所に新しい発想を取入れるためのディスカッションを取入れることが効果的である。
- ・教員個々が自己診断し、分析して改善点を探し研修に対応してはどうか。また、これらは定期的実施して新任教員の意識向上に繋げてはどうか。
- ・経済面に関しては、適切に対応していると感じる。

重点項目	評価項目	評価※
2-1	ドロップアウト対策は計画的に行われているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・生徒と担任との定期的な面談を実施しているが、家庭環境の変化などによる経済面など、生徒本人の意思に反して退学せざるを得ない状況での、生徒への対応をいかにすべきかが問題である。
- ・中学、高校時代に不登校の経験がある生徒が、本校に入学して順調に登校するも夏休みも過ぎ、疲労や緊張が取れ数ヵ月後、不登校になる生徒が若干出てくる。そのような生徒に対するケアの方法に苦慮する。

②今後の対応または改善

- ・ 経済面では、国の就学支援や日本学生支援機構の案内、学校独自の奨学金を勧めることで保護者との三者面談の充実を図っていく。
- ・ 精神的な問題を抱える生徒には、学校での対応及び公共機関の専門家と共に心のケアの充実を図っていく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 不登校、その他に関しては、現在の社会情勢のひずみを感じる。
- ・ 公的期間の支援制度を活用することは重要である。(2)
- ・ 学生への積極的なケアは今まで通り継続対応をしてほしい。
- ・ ドロップアウトに関しては極めてよく対応ができていると考える。多感な学生の個々に対し教員が親身に向き合っている様子がうかがえる。特に、学生個人との面談が授業の一環に取り入れられている点は評価できる。
- ・ ドロップアウトに関しては、課題と今後の対応の2点を分析して、教員からのヒアリングを実施すべきである。

### Ⅲ.評価項目の達成及び取組み状況

#### 1.教育理念・目標

項目	評価項目	評価※
1-1	教育理念・目標・育成人材像は定められているか	4
1-2	学校における職業教育は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	学校の教育理念・目標・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・ 「専門技術や技能の習得」「豊かな人間性と個性の伸張」「誠実で心豊かな人間性の育成」「広い視野と優れた創造性を育む」「たゆまぬ努力と貪欲な研究心・向上心の育成」など「社会の中で生きる力」を植えつけるため日々教職員は努力しているが完全とはいえない。

②今後の対応または改善

- ・全ての学科において企業との連携を図っていくと共に、今後のニーズを捉えて、専門学校ならではの特色をもっと強化しなければならない。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・専門学校としての特色は充分にあると感じる。
- ・他の学生同士のコミュニケーションの場を多く設定するとよいと感じる。
- ・現在の理念・目標は、今後もしっかり持ち続けてほしい。
- ・ビジ電は、高い資格や技術の実績については、かなり貢献しているといえよう。ただし、豊かな人間性の育成や広い視野と優れた創造力を育むという目標であるが、これらを達成する手段は、学生それぞれの自主的な経験量と研究意欲を高めるしかない。  
それを高めるために、各教員が意識してそれぞれの手段の動機を促すことが大切である。さらに、普段から問題意識を持って学生に様々な話題を提供することが有効と考える。
- ・実社会に適応する専門技術の技能を習得し、遂行できるスペシャリストの人材育成を訴えてはどうか。

## 2.学校運営

項目	評価項目	評価※
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・意思決定システムは適宜機能しているが、全ての事項について常に決定されているとは言えない。
- ・全ての情報公開が行き届いているわけではなく適切とは言い難い。

②今後の対応または改善

- ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制を整えていく。
- ・情報公開の在り方を模索して的確な対応をしなければならない。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・コンプライアンス体制等に関しては外部から拝見していても充足している  
と考える。
- ・学校長の采配が行き届き、教職員が一枚岩で動き、正当な教育を進めて  
いるので素晴らしい。  
さらに、それを地域に広く開かれた学校として可能な限り。情報公開を  
積極的に行うことが大切である・
- ・コンプライアンス体制の委員会が必要ではないか？

### 3.教育活動

項 目	評価項目	評価※
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対する教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか	2
3-5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
3-6	関係分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3
3-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
3-8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-11	人材育成の目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12	関連分野における業界との連携において優れた教員を	3

	確保するなどマネジメントがおこなわれているか	
3-13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みは行なわれているか	4
3-14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

#### ①課題

- ・昨年度は、コロナ感染症の影響によりキャリア教育の一環である企業実習が実施できなかった。
- ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し等は、全学科で行われているわけではない。
- ・職業教育に対する外部関係者からの評価はまだまだ行われているとは言い難いのが現状である。

#### ②今後の対応または改善

- ・コロナ感染症の終息を睨みながら、企業と調整してキャリア教育を充実させる。
- ・関連分野における業界との連携をさらに深めつつ、学校としてマネジメントできる体制作りを進める。

#### <学校関係者評価委員記入欄>

- ・地球規模でのコロナ禍で行動力不足は致し方ないと考える。
- ・昨年度のコロナ禍で一部の学科だけでも外部企業と連携してキャリア教育を推進できたことは評価に値する。
- ・キャリア教育は、コロナ感染症との繋がりもあり、現段階では少し難しいが少しずつ行えばよい。

## 4.学修成果

項目	評価項目	評価※
4-1	就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	4
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・学校斡旋で就職した生徒に関しては、離職しない限り企業から状況を  
得られる体制だが、離職した場合は把握できていない。
- ・在学生の社会的活躍等の把握はできているが、卒業生の社会的活躍  
及び評価は改善の余地ありと認識している。
- ・精神的不安定な学生への支援

②今後の対応または改善

- ・今後、就職先企業とも連携を図り、卒業生の活躍の把握と評価を  
確立するための仕組みづくりを行う。
- ・卒業生で独立している卒業生に、現況報告を依頼して活躍の把握に  
努め在学生の進路決定に役立たせる。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・企業困惑のコロナ禍での就職率の高さは、十分に評価できる。
- ・退学率、特に経済的問題による退学は問題である。就学支援  
等、あらゆる手段を駆使して学生に救いの手を伸ばせばあり  
がたい。
- ・ビジ電は就職指導部がしっかりしていて、コロナ不況の中でも  
順調に高い就職率を維持していることは高く評価できる。
- ・卒業生、在校生の社会的活躍等は、アンケートによる分析を実施  
してはどうか？  
さらに、流行のホームカミングディの実施はどうか？

## 5. 学生支援

項目	評価項目	評価※
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
5-7	保護者と適切に連携しているか	3
5-8	卒業生への支援体制はあるか	4
5-9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
5-10	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職 業教育の取組みが行われているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切



①課題

- ・計画時において課外活動に対する支援は充実すべきと計画したがコロナ感染症の影響で実施不可能となった。
- ・保護者との適切な連携に関しては、年2回の通知での連絡はしているものの、その他は欠席が目立つなど特定の学生のみになっているのが現状である。
- ・一部の学科では、社会のニーズを踏まえた教育環境が整っているが全てにおいてとはいえない。
- ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みは、まだ不十分といえる。

②今後の対応または改善

- ・保護者との適切な連携に関しては、今後、保護者会の実施に向け検討していく。
- ・全ての学科において、社会のニーズを踏まえた教育環境が整えられるように今後研究して実践していく。
- ・今後、市内の高校と連携を図りキャリア教育・職業教育を充実させるための専門学校としての役割りを全うする。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・専門学校においては、保護者の理解と協力を得ること、および、保護者が納得できる教育成果を出すためにも、保護者と密になることは大切である。学生の学習進捗状況や理解度を保護者にも報告して理解してもらうことは大切なことである。
- また、社会の変化に相応できるように、学生には基礎・基本をしっかりと理解、体得させる学校の姿勢を保ってもらいたい。

## 6.教育環境

項目	評価項目	評価※
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6-2	学内外の実習施設、インターシップ <sup>o</sup> 、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2
6-3	防災に対する体制は整備されているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・インターシップの実現はコロナの影響により中止を余儀なくされた。海外研修については設置学科の状況から現時点での必要性は少ないものと判断しているが、今後はインバウンドなどグローバル化を元に検討の余地はある。
- ・大規模な災害が発生した場合を想定して、学生避難など安全第一を考えていかなければならない。

②今後の対応または改善

- ・インターシップはコロナ感染症の終息を待って、再度実施していく。
- ・地域で行う防災訓練にも積極的に参加して、地域住民との連帯感を育み、学生の安全確保を最優先で考えていく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・在学中の社会トレーニング（インターンシップ等）は必要と感じる。ゆえに、体制を整えて実施すべきと考える。
- ・コロナ禍でも企業は従来のインターンシップ受入れから、代替案もっていると思うので、担当者同士のチャンネルを途切れさせないようにしていきたい。
- ・仕事の経験を体験することは大切なので、通常のインターンシップが難しいようであれば、企業ビデオ説明会や校内にて出張説明会など、できる範囲で進めていくのが望ましい。
- ・朝・夕の全館消毒は、学生や保護者にとって安心感を持たせるので当面は続けてほしい。
- ・実環境下ではコロナ感染症拡大防止のため中止等は仕方ないことと考える。

## 7.学生の募集と受入れ

項目	評価項目	評価※
7-1	学生募集活動は適正に行われているか	4
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
7-3	学納金は妥当なものになっているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・募集活動は適正に実施されているが、18歳人口の減少、大学進学  
の増加、就職しやすさなどの影響から募集活動に工夫が必要と思われる。

②今後の対応または改善

- ・入学希望者が興味を持てるコースの設置とカリキュラム内容に  
工夫をして外部に向けてアピールしていく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・時代にマッチするコースやカリキュラムを常に考案して、どう  
職業に結び付けるかのシミュレーションを考えておくとよい。  
もちろん、運営にも募集にもコンプライアンスは重要になってくる。
- ・募集に関しては、好調のようなので、そのまま維持してほしい。
- ・体験入学等の敷居が低くなることは良いことだと感じる。
- ・オープンキャンパスの充実をより一層図ってほしい。
- ・学校訪問などもマメに実施して、高校とは信頼関係を築き、学生を  
送り出してもらえようとする。

## 8.財務

項目	評価項目	評価※
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・財政基盤の安定性は学校運営にあたり大切なことである。  
大学進学や就職の良さから定員の入学者数の確保はやや厳しい現状  
がある。

②今後の対応または改善

- ・大学進学や就職の良さは今後永続的なものではないと思われる。
- ・授業の内容密度を更に高め、生徒の満足度を上げるためにも努力  
していく必要がある。
- ・財務情報公開に関しては、公開方法や公開範囲において今後  
検討しなければならない。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・今のままの健全な経営を今後も望む。
- ・大学進学が依然高い中、コロナの影響で少しずつではあるが、大学に進む意識が減少しているのは事実である。ビジ電のように専門学校と大学のそれぞれのメリットを生かした教育は、今後、益々注目を集めるはずである。引き続き地域社会に訴求し、目的意識の高い学生の安定した入学を望む。

## 9.法令等の遵守

項目	評価項目	評価※
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9-2	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	3
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
9-4	自己評価結果を公開しているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・担任サイドでの個人情報保護の認識レベルが、教員ごとに差がある。

②今後の対応または改善

- ・教員研修などで、個人情報保護について意思統一を図っていかなければならない。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・守秘義務については、一度でも不備があってはならないので、普段から教職員の意識の喚起を続けてもらいたい。
- ・個人情報等は、法令や世論等において、年々その厳しさが増しているので、教員研修等で対応していくことは良いことと考える。
- ・取組等によって、充足されると考える。

## 10.社会貢献

項目	評価項目	評価※
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	学生ボランティア活動を奨励・支援しているか	2
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等含む）の受諾等を積極的に実施しているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

## ①課題

- ・本来であれば、ボランティアは積極的に学生に勧めているが、今年度はコロナ感染症の影響により自粛した。

## ②今後の対応または改善

- ・コロナ感染症の終息に伴い、積極的にボランティア参加を奨励する。

## &lt;学校関係者評価委員記入欄&gt;

- ・今後、全てのことでボランティアの重要性は高まっていくと考える。
- ・コロナ禍の状況を観ながら、バランス良く対応していただきたい。
- ・ボランティアを通して社会経験値を高めるのは大切であるが、危険や健康を害する状況下では、学校から学生へ積極的な参加の奨励はできないと考える。よって、今は社会貢献の必要性を認識しながらも、状況改善に伴い活動再開を行えば良いと考える。
- ・ボランティア再開は、コロナ感染症終息後の実施が望ましいと感じる。